

平成 26 年 8 月 21 日

鹿児島大学病院小児科に通院中の患者さんへ（臨床研究に関する情報）

当院では、以下の臨床研究を実施しております。この研究は、通常の診療で得られた過去の記録をまとめることによって行います。このような研究は、文部科学省・厚生労働省の「疫学研究に関する倫理指針」の規定により、研究内容の情報を公開することが必要とされております。この研究に関するお問い合わせなどがありましたら、以下の「問い合わせ先」へご照会ください。

[研究課題名] 川崎病患者の治療前の免疫グロブリンG値と初回の免疫グロブリン静注療法への反応性との関連性について

[研究機関] 鹿児島大学病院 小児科

[研究責任者] 柳元孝介（小児科）

[研究の目的]

川崎病の初期治療は免疫グロブリン静注（IVIG）大量療法で 80%程度の患者さんが治療に反応しますが、重大な合併症である冠動脈後遺症は 15%程度の患者にみられます。冠動脈後遺症は初回 IVIG 療法に反応しなかった患者さんに多くみられるため、IVIG 不応例の予測ができれば、それら患者さんに対してはステロイドを併用するなど治療を強化し冠動脈後遺症の頻度を減少させることができます。

治療前の免疫グロブリン G（IgG）低値が冠動脈後遺症のリスク因子であるとする報告がありますが、IVIG 大量療法が確立する前の研究であり、再評価が必要です。本研究では川崎病患者の治療前の免疫グロブリンG値と初回の IVIG 大量療法への反応性との関連を明らかにすることを目的としています。

[研究の方法]

●対象となる患者さん

2001年1月から2011年8月の期間に川崎病の診断で鹿児島大学病院小児科および鹿児島市医師会病院小児科に入院した患者さんを対象といたします。

●利用するカルテ情報

- ・年齢、性別、身長、体重
- ・熱型表
- ・血液検査：IgG, IgA, IgM, vascular endothelial growth factor (VEGF)
- ・心臓超音波検査から得られた冠動脈径
- ・免疫グロブリン静注療法への反応性の有無、冠動脈後遺症の有無

[個人情報の取り扱い]

利用する情報からは、お名前、住所など、患者さんを直接同定できる個人情報は削除します。また、研究成果は学会や学術雑誌で発表されますが、その際も患者さんを特定できる個人情報は利用しません。

[問い合わせ先]

〒890-8520 鹿児島市桜ヶ丘 8 丁目 35 番 1 号  
鹿児島大学病院小児科 柳元孝介  
電話 099-275-5354 FAX 099-265-7196